

1 単元 「脚本家になろう～那須与一は何を語る～」

2 教科論と本単元の関わり

教科論に掲げている「吟味思考」とは、目の前に現れる言葉の善し悪しを判断するような考え方に留まらず、「その対象の内容自体の再考にもつながるような考え方」である。本単元は、那須与一の台詞そのものを分析し、「そもそも『平家物語』とは何か」という問いを生徒が立てていくことができるよう、単元を構成している。生徒は古語の意味を踏まえた逐語訳をするだけでは学習課題達成に至ることができない。生徒が那須与一の台詞を一つ一つ丁寧に吟味することが、ひいては『平家物語』という作品そのものの魅力に迫ることにつながると考える。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>古川日出男訳の『平家物語』がアニメ化されて民法で放映され、大いに耳目を集めた。平家の生き様に心をうたれた視聴者が舞台となった場所を訪れる「聖地巡礼」が今も絶えない。本作品が成立しておよそ800年の月日が流れたが、今もなお、古典文学の魅力は色褪せることがない。</p> <p>本単元は、『平家物語』の一場面を脚本化するという活動を通して、『平家物語』に表れるものの見方や考え方を捉え、登場人物の言動の意味をとらえることができるようになることをねらいとする。そこで、「アニメ版『平家物語』の「那須与一」に特化した回を設けるために「那須与一」を解釈し、現代の視聴者を想定したアニメ『平家物語』における「那須与一」の回の脚本を書きなさい。」という学習課題を提示し、課題解決を促す。那須与一の台詞を通じて作品の魅力に迫ることができるという点においても、本単元の学習は意義深いものである。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- 現代語訳や語注を手がかりにして『平家物語』を読み、古典の世界に表れるものの見方や考え方を捉えることで、古典に親しむことができる。
- 『平家物語』の様々な場面から、その根底に流れる仏教的無常観とは何かについて自分の考えをもち、登場人物の言動の意味を捉えることができる。
- 学習課題達成のための見通しをもって活動計画を立案し、一つ一つの表現を吟味する過程で言葉がもつ価値に気づき、『平家物語』の一場面を脚本化しようとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 現代語訳や語注を手がかりにして作品を読み、『平家物語』に表れるものの見方や考え方を捉えている。</p> <p>イ 『平家物語』に対する自分の考えを整理するために、『平家物語』に関わる様々な本や文章に触れている。</p>	<p>ウ 「読むこと」において、『平家物語』の根底に流れる仏教的無常観や、場面設定をふまえて、那須与一の言動の意味を捉えている。</p>	<p>エ 那須与一の台詞や脚本における表現の一つ一つ取り上げて粘り強く吟味し、課題解決のための見通しをもって「那須与一」を脚本化しようとしている。</p>

6 計 画 (10 時間)

次	配時	学習活動・内容	主たる手だて (○)	評価
一	2	<p>1 『平家物語』についての情報を整理した上で、学習課題を把握する。</p> <p>(1) アニメ『平家物語』の一部を視聴し、『平家物語』とは何かを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『平家物語』に関する作品情報</li> </ul> <p>(2) 「那須与一」の現代語訳を読み、概要を整理した上で、学習課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「那須与一」の概要</li> </ul>	<p>○ 『平家物語』で何が語られているかを捉えさせるために、アニメ『平家物語』の第1話と、原作を比較する場を設ける。</p> <p>○ 学習課題の必然性を実感させるために、「那須与一」の知名度の高さと、アニメ版『平家物語』の構成を示す。</p>	ア
		<p>&lt;学習課題&gt;</p> <p>アニメ版『平家物語』の「那須与一」に特化した回を設けるために「那須与一」を解釈し、現代の視聴者を想定したアニメ『平家物語』における「那須与一」の回の脚本を書きなさい。</p>		
二	4	<p>2 「那須与一」における与一の台詞を決める。</p> <p>(1) 「弓切り折り自害して・・・」という那須与一の台詞がそのままアニメ化に際して現代語訳できないことを把握し、課題解決に必要な方略を列挙する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「那須与一」に表れるものの見方や考え方</li> </ul> <p>(2) ～ (4) 活動計画書を立案し、必要に応じて付加修正を繰り返しながら、那須与一の台詞を確定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那須与一の台詞に込められた意図</li> <li>・那須与一の台詞と、『平家物語』に表れるものの見方と考え方のつながり</li> <li>・『平家物語』に表れる仏教的無常観</li> </ul>	<p>○ 那須与一の台詞に込められた意図を把握させるために、「舟を一面に並べて」「くつばみを並べて」という表現を抜いた本文を示し、その表現の必然性について問う。</p> <p>○ 那須与一の台詞と、『平家物語』に表れるものの見方と考え方のつながりに着目させるために、生徒の求めに応じて『平家物語』の「敦盛の最期」「壇ノ浦の戦い」等に関わる資料を提示する。</p>	アイウ
三	4	<p>3 「那須与一」の脚本をつくり、級友の脚本と自作の脚本を比べる。</p> <p>(1) ～(3)前時までにつくった那須与一の台詞を中心に、脚本における登場人物の台詞と語りの文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「那須与一」における山場となる場所と、その理由</li> </ul> <p>(4) 完成した脚本を級友と読み合い、単元で学んだことを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・級友と自身の脚本の違いや共通点</li> <li>・『平家物語』の新たな魅力</li> </ul>	<p>○ 『平家物語』の新たな魅力に気づかせるために、複数の生徒の脚本を整理し、共通点や相違点を示し、その理由を問う。</p>	エ

7 単元を終えた生徒の想定される姿

単元の学習を終えた生徒は、本単元で学んだことについて、「“那須与一”に登場する那須与一の台詞を書き換える作業は、単なる逐語訳で良いと最初は思っていました。しかし、平家物語の根底に流れる仏教的無常観を、様々な場面から読み取り、その考え方に即して台詞を書き換える必要があることが分かりました。那須与一は弓矢の天才でありつつ、一人の人間です。単なる一興の場面でありながらも、絶対に打ち損じることが許されないという緊張感を、台詞の一つ一つに込めました」という旨の言葉を述べる姿を最終的なゴール像として設定し、総括的評価を行う。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日(金) 5校時 二次の2 図書室にて

(2) 二次の(2)～(5)を通じた主眼

那須与一の「弓切り折り自害して…」の台詞をアニメ化する際の現代語訳を書く活動を通して、那須与一の台詞の意図や、那須与一の台詞と、『平家物語』に表れるものの見方と考え方のつながりを捉えることができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動	形態	配時
1 原作とアニメで台詞を変えることの必然性について考え、本時を含む3時間の流れと、3時間後のゴール像を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>[課題] 今日を含む3時間の授業時間を使って、那須与一の発言の意図を的確に捉え、『平家物語』の世界観を踏まえた台詞の改変案を一つ提案しなさい。</p> </div>	一斉	5
2 [課題]を達成するための学習活動計画を立案する。 <生徒が立案する学習活動の例> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台詞に込められた那須与一の思いを読み取る。</li> <li>・那須与一の台詞にある言葉の意味を調べる。</li> <li>・那須与一の人物像を描写から読み取り、整理する。</li> <li>・『平家物語』の世界観を捉えるために、他の場面を読む。</li> <li>・那須与一の台詞として考えられるものを複数列挙し、『平家物語』の世界観に合うかどうか検討する。</li> <li>・那須与一の台詞について、複数の現代語訳を比較する。</li> </ul>	個	10
3 自身が立案した学習活動計画のうち、最初の活動から取組を始める。	任意	25
4 本時の活動を振り返り、次時の見通しをもつ。	個 ↓ 一斉	10

(4) 主たる手だて

活動3において、「弓切り折り自害して…」の部分を変更するためにどのような言葉が適切か吟味させるために、『平家物語』の現代語訳として小説版や漫画版など、多種多様な資料にアクセスできる場を設定する。

(5) 想定される生徒の姿

[展望する姿] 活動2において、4時間後のゴール像を見据えて必要な活動を想定する姿。また、活動3において、必要に応じて学習活動計画を適宜修正しようとする姿。

[行動する姿] 活動3において、自身が立案した学習活動計画に従って、課題解決のために必要な活動に取り組む姿。

[省察する姿] 活動4において、本時の活動から学んだことを整理し、必要に応じて次時の学習活動計画の内容を練り直す姿。

(6) 本時における「課題」と「めあて」について

本時で示す「課題」は、本時を含む4時間の授業を通じて生徒が解決するものであり、4時間後のゴール像を示すものである。なお、学習活動の特性上、共通のめあては設定できないため、活動2で設定する「学習活動計画書」の中に、個別のめあてが生徒によって設定される。個別のめあては、生徒が「すること(活動目標)」に「高めたいこと(質的な目標)」を含めたものを想定している。

(7) 本時の準備物

前時に生徒が必要な学習活動として等を出した場合、本時では他の場面の現代語訳に関する資料や、「那須与一」の二次創作物等を複数準備し、生徒が自由に閲覧できる場を設定する。

(8)本時に関わる資料1～3

【資料1】前時で生徒が列挙した学習活動の抜粋（別のクラス実施分）

**学習課題**

アニメ版『平家物語』の「那須与一」に特化した回（第105話）を設けるために、「那須与一」を解釈し、現代の視聴者を想定したアニメ『平家物語』における「那須与一」の回の脚本を書きなさい。

- ・ 那須与一の場面前後の話の流れを捉える
- ・ 那須与一やそれをみている源氏・平氏の考えていることやその場の雰囲気などを考える
- ・ 短縮できるところを探す
- ・ セリフで言い換えられそうなどころはないか、また、付け加えたほうがわかりやすいところはないか探す
- ・ 前後の話を読む（現代語訳だけでも良い）
- ・ 那須与一の心情を考える

○アニメ化に際して、那須与一が神頼みをする場面を脚本化するために、どのような学習活動が必要だろうか。

**抜粋**

公開本時の前の時間（前時）では、那須与一が神頼みをする場面を脚本化するために必要な学習活動を「ロイロノート」の共有ノートで列挙させています。公開本時では、前時で列挙した活動を参考にしながら、自分だけの活動計画を立案していきます。

【資料2】公開本時で生徒が作成する活動計画書の例（別のクラス実施分）

<p>ゴール 那須与一の発言の意図を的確に捉え、『平家物語』の世界観を踏まえて、那須与一が神頼みをする場面の脚本を作成させる。</p>	③	②	①	A	<p><b>活動計画書</b></p> <p style="font-size: small;">具体的な活動内容</p>
	D	C	B	A	
E	F	<p>活動計画立案+めあて設定の時間</p> <p>A 那須与一の人物像を教科書、アニメ一部、本から捉える。</p> <p>B その場所での緊迫感や戦場の場面などを想像、考える。</p> <p>C 削れる場面を探し、どのように短縮するのかを考える。</p> <p>D 台本作成。那須与一の人物像、その場に適した発言かなどに気を付けて台本を作成する。</p>			

公開本時を含む3時間の活動計画を立案します（公開本時が、表の①にあたります）。左記は別のクラスの生徒が実際に作成したものです。この生徒は、Aの活動を、本時から、次時の冒頭までかけておこなうよう設定しています。この活動計画は、加筆修正を繰り返しながら活用していきます。

【資料3】公開本時で生徒が記入するめあてと、振り返りの例（別のクラス実施分）

○右記のように判断した理由を書きましょう。

本時は、那須与一の話について細かく読み取ることができた。しかし、調べていくにつれて、那須与一という話の意図や与一の生涯について知った。教科書だけではわからなかった話の深い意図や与一の人物像について理解することができた。しかし、今回はアニメによる改変例について調べきれいなかったので、次回していきたいと考えた。

60%

○今日のめあてを、あなたはどれくらい達成できましたか。（めあての達成度）

今日の、私のめあて

令和六年（十二）月（六）日

「脚本家になろう〜那須与一は何を語る〜」

那須与一の話の雰囲気をつかむために、那須与一の話について細かい内容を読み取ったり、アニメによる改変の成功・失敗例を調べたりしよう。

★活動計画書の目録を参考に、自分だけのめあてを書こう。

★めあては、「目的+活動+手段+しおり」から書くべし。

①目的（目的） ②活動（活動） ③手段（手段） ④しおり（しおり）

生徒は、自身で作成した活動計画をもとに、今日のめあてを自分で設定します。めあては、「目的+活動」で書くように指導をしています。振り返りカードの部分だけ後から配付し、授業の終末段階で入力したものを貼付して提出させています。

- 1 単元「心に刺さるパブリックスピーキングをしよう～生成AIの活用による対話的な話し手の育成を目指して～」
- 2 教科論と本単元の関わり

教科論と本単元の関わりとしては、スピーチの発表とその評価をする活動を通して「思考方法」の「具体化」と「抽象化」を一つの手だてとして、単元を貫く課題を達成していけるよう仕組み、「吟味思考」を働かせて物事を捉えることができる生徒の育成を目指す。「吟味思考」を働かせる場面の生徒の姿として、スピーチの原稿を推敲する際に聞き手の立場や年齢層に応じて、抽象から受け取る情報を具体化していくことで、表現の工夫や伝えたい事柄が伝わるか「具体」と「抽象」を往還させ、言葉を吟味するような姿を想定している。また、この活動を通して、自分が表現したい事柄は本当にこれで合っているのか自身の考えに立ち返ることもねらいとしている。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>「不易と流行」という言葉があるが、今も昔も言葉を吟味して自分の考えを表現し他者に伝えることは変わらない。令和という「価値観の変化が速い」時代に生きるためには「想像力」を働かせて「創造力」を養うことが今後の社会の担い手になっていく生徒たちには必要不可欠である。</p> <p>本単元は優れたパブリックスピーキングのモデルから特徴や創作のための方法を見だし、そこからスピーチとして表出し、評価をする活動を通して話の構成や状況に応じた表現の効果や話し方の工夫に着目し、対話的な聞き手を意識して、自分の思いや考えを伝えたい事柄に即して言葉の吟味をすることができるようになることをねらいとする。そこで、「あなたの住む町の魅力について、自分の町の良さに気づいていない人の心に刺さるパブリックスピーチをなさい。」という学習課題を提示し、課題解決を促す。本単元は場の状況に応じて、言葉を吟味しながら話をする点で、大変意義深い。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- 言葉に関心をもち語感を磨き語彙を豊かにして、自分の思いや考えを適切に表現するために必要な言葉を選択することができる。
- 優れたパブリックスピーキングのモデルから特徴を見だし、構成や表現・効果的な話し方の工夫を通して、表現したい事柄を明確にしてスピーチをすることができる。
- 単元課題達成のための方略を見だし、自分なりの活動計画を立て、表現に用いる言葉の吟味を通して言葉がもつ価値を認識してスピーチをしようとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 言葉に関心をもち語感を磨き語彙を豊かにして、自分の思いや考えを適切に表現するために必要な言葉を選択している。</p>	<p>イ 優れたスピーチから状況に応じた表現や構成を見だし、聞き手の反応を踏まえて話や働きかけをしている。</p> <p>ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p>	<p>エ 単元課題達成のための方略を見だし、自分なりの活動計画を立て、必要に応じて更新し、表現に用いる言葉を粘り強く吟味することを通じて、言葉がもつ価値を認識してスピーチをしようとしている。</p>

6 計画 (11 時間)

次	配時	学習活動・学習内容	主たる手だて	評価
一	2	<p>1 学習課題を捉え、学習課題達成のために必要な活動計画を個人で立案し、発表に向けた準備をする。</p> <p>(1) 学習課題を把握し、学習課題達成のための見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックスピーキングの定義</li> </ul> <p>(2) 前時で立てた計画をもとに、実際にパブリックスピーキングの発表に向けてテーマを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの設定の方法</li> </ul>	<p>○ 学習課題を捉えて課題達成のためには何が必要か整理させるために、活動計画を立てるよう促す。</p> <p>※以下の二つは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「・生成 AI モデルの活用の在り方」に網羅する。</li> <li>・状況に応じた表現と効果</li> <li>・効果的な話し方の工夫</li> </ul>	エ
		<p>〈学習課題〉あなたが住んでいる地区では、「住む町の魅力」について、代表者としてあなたがスピーチをすることになりました。町の魅力について、聴衆である自分の町の良さに気づいていない人たちの心に刺さるパブリックスピーキングをしなさい。</p>		
二	4	<p>2 優れたパブリックスピーキングの特徴を捉え、学習課題達成のための方略を見だし、発表に向けた準備を行う。</p> <p>(1) ～ (2) 優れたパブリックスピーキングの特徴を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の構成の順序性</li> <li>・表現に最適な語句の在り方</li> </ul> <p>(3) ～ (4) 対話的なパブリックスピーキングの聞き手・話し手の在り方を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手の関心を引く話題の工夫</li> <li>・対話的な話し手の特徴</li> </ul>	<p>○ 優れたパブリックスピーキングの特徴を捉えさせるために、モデルとなる話者の映像を提示し、話をする構成の順序性について問う。</p> <p>○ 対話的な聞き手の在り方を捉えさせるために、ペアで模擬のスピーチを行う場を設けて、互いの発表と聞き方について評価し合うよう促す。</p>	イ
三	3	<p>3 パブリックスピーキングの原稿を推敲する過程を個人で立案し、鑑賞会で発表するスピーチを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生成 AI モデルの活用の在り方</li> <li>・推敲の方法</li> </ul>	<p>○ 必要に応じて計画を付加修正しようとする姿を具体化するために、活動の途中で教師が作成した生成 AI のフェイク動画を視聴する場を設けて、人前と画面越しのパブリックスピーキングの違いについて問う。</p>	ア エ
四	2	<p>4 パブリックスピーキングの発表を通して、他者の発表を評価し、単元の学習を振り返る。</p> <p>(1) 互いの発表を聞き、評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチを鑑賞（評価）する視点</li> </ul> <p>(2) 単元の学習を振り返り、パブリックスピーキングの在り方についての考えを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックスピーキングの在り方</li> </ul>	<p>○ 「心に刺さるパブリックスピーキング」の特徴を捉えさせるために、級友と自分のスピーチの発表の共通点や相違点を整理するよう促す。</p> <p>○ 優れたパブリックスピーキングの在り方を整理させるために、学習課題達成のために取り組んできた活動を振り返り、記述するよう促す。</p>	イ ウ

7 単元を終えた生徒の想定される姿

生徒は本単元の学習で学んだことについて、「これまでスピーチをするということは、センスの良い言葉をいかに上手に並べて相手に話ができるかだと思っていましたが、優れたスピーチといわれるものには、話の順序性を意識した構成をしたり、場の状況を見て聴衆に問いかけてみたり、話し方を調整してみたりといった工夫があることに気が付きました。また、聞き手の立場や年齢層に応じて言葉を吟味する必要があることが分かりました。」という旨の言葉を述べる姿。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日（金）4校時 三次の1 3年2組教室にて

(2) 三次を通した主眼

画面越しの生成 AI のモデルと生身の人間のスピーチを比較する活動を通して、生身の人間がスピーチをする意義を捉えて自分が作成した発表原稿の在り方を見直し、場の状況に応じてパブリックスピーキングの発表に向けて準備を整えることができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動	形態	配時
1 前時の学習活動を振り返り、本時の学習計画を立案する。  めあて 活動計画を立て、スピーチの発表に向けた準備を進めよう。	一斉 ↓ 個	10
2 活動計画に沿って、学習課題の達成に向けた活動に取り組む。 ＜想定される生徒の活動＞ ・自分が作ったスピーチの原稿を推敲する。 ・自分が作ったスピーチの原稿をもとに、スピーチの練習を行う。 ・自分が作ったスピーチの原稿を他者に見てもらい、意見をもらう。	自由 ↓ 一斉 ↓ 個 ↓ 小集団 ↓ 個	20
3 必要に応じて活動計画を修正し、各自がパブリックスピーキングの発表に向けて必要な準備をする。	個 ↓ 自由	10
4 本時の活動の成果と次時に向けた課題を整理する。	個	10

(4) 主たる手だて

- 活動2において、生身の人間がスピーチをする意義と発表原稿の在り方を捉えさせるために、画面越しの生成 AI のモデルを視聴させ、生身の人間がスピーチをした場合の比較を促し、スピーチという言語活動の在り方について問う。

(5) 想定される生徒の姿

[展望する姿] 活動1において、本時の課題の達成を見据えて、必要に応じて活動計画の内容を立てる姿。また、活動2を経て、活動3において、単元を貫く学習課題の達成に向けて、活動計画を修正する姿。また、活動4において、次時に必要な学習活動を想定する姿。

[行動する姿] 活動2において、教師の発問後に、自分の考えを整理する姿。また、活動2において、必要に応じて対話の相手を選択しながら、活動計画で示した活動に取り組む姿。

[省察する姿] 活動2において、教師の発問後に、他者との協働を経て、再度、自分の考えを整理し、必要に応じて活動3において、活動計画を修正する姿。また、活動4において学習課題の達成に向けて、次時の活動に必要な要素や活動を整理する姿。

(6) 補足

本単元では、生徒が学習課題の達成に向けて活動計画を作成している。そのため、生徒たちは各自で一単位時間のめあてを立てることになる。その際、めあてが行動目標になるだけでなく、質的な高まりを目指す（質的な達成目標）＋行動目標になるように促す。そうすることにより、生徒はより精緻な目標を設定して、活動を行うことができる。